

令和六年度 全日本中学生水の作文コンクール愛媛大会

優秀賞

「カジカガエルのうた」

松山市立椿中学校 一年

山本 皇太郎 やまもと こうたろう

「かはづ鳴く 清き川原を 今日見ては いつか越え来て 見つつ 偲はむ」

僕は、小学一年生の時にダムの見学でカジカガエルの鳴き声を初めて聞きました。フィーファイとまるで鳥が鳴いているようで、こんな鳴き声のカエルがいるのかとびっくりしました。祖母に聞くと昔は仁淀川でたくさん聞けたけど最近は何も聞けないし、どこで聞けるかも分からなくなりましたねと言いました。

昔とはいつぐらいだろうといういろいろ調べてみると万葉集にもカジカガエルの歌声を書いている句がありました。

こんな昔からカジカガエルの歌声でみんないやされていたんだなあと思いました。

僕は久しぶりにカジカガエルの声が聞きたいと思い一年生の時に行った場所へ行きましたが今年は何も聞けません。僕はこの五年間でカジカガエルが住みにくい環境になってしまったのかなあと思いました。

松山市絶滅危惧類になっていたのでやっぱり住める場所が少なくなったんだと残念に思います。僕はカジカガエルが住みにくい川になった原因が何か調べてみました。

すると原因はたくさんありました。

一つ目は、ゴミを川に捨てる。二つ目は、家庭からの排水、三つ目は、工場からの排水、四つ目は、田畑からの水、五つ目は不法投棄物です。

田畑からの水には除草剤や殺虫剤が雨にまじって川に流れる事と不法投棄物は、有害な物質をドラム缶などに入れ捨てられた物が山間部

などに埋められている中から地面ににじみでた水が川の源流を汚染することなど思いもよりませんでした。

これらの原因をとりのぞくには、一人一人が水は限りある資源だということ認識し、今すぐ努力する必要があります。

川をきれい保つには何年も何十年もかかります。

今僕たちは何不自由なく安全な水を飲み、お風呂に入り、洗濯したきれいな服を着て、おいしい御飯が食べられています。

この当たり前の生活を続けたいと思うなら、今から少しずつでももう一度日常生活を見直す時に来ていると思います。僕達の出来る事は小さな事かもしれないけれど、皆が実行すれば大きな成果を生むと思います。

歯みがきの時、水を流しっぱなしにせずコップに入れることや、シャンプーやリンス洗剤を適量使用する、食品ロスを減らす等、それらを一人一人が努力する事で、水質向上、汚染削減、消臭の向上を図り、河川への負荷を軽減する事が出来ます。

僕達の町の重信川では、クリーン大作戦が十月に行われて、ボランティアの方達が河川をきれいにしていることも知りました。河川は地域住民の共有財産です。僕も今年はボランティアに参加して行動してみようと思います。

そして昔のように、万葉集の時代の自然豊かな日本を味わえるよう努力し、カジカガエルのうたが聞ける世の中になってほしいと思います。

今回改めて水について考えるきっかけになりました。そして今まで当たり前だと思っていた水のすばらしさを再確認し大切な水を未来へつなげていきたいと思います。

そして未来の子供達もカジカガエルのうたが聞こえるといいなと思います。

住みにくい時代に一生懸命生きているカジカガエルたち待ってね。